はじめに

「現代キリスト教思想研究会」では，これまで，「宗教と科学」「アジアと宗教的多元性」「宗教的寛容」などのテーマのもとに研究会（共同研究）を行ってきた．しかし，この間活動を進める中で感じられるのは，キリスト教思想においても，ポスト近代が叫ばれてすでにかなりの時間が経過しているにもかかわらず，未だ新しいキリスト教思想の動向は不透明なままであり，キリスト教思想研究の現代の状況は混沌としている，ということである．こうした状況の中から，新しいキリスト教思想研究の可能性を切り開くために必要なことは，近代の歴史的発端まで遡って，近代とは何か，あるいは近代の文脈におけるキリスト教思想とは何だったのか，という点について，根本から考察を行うことであろう．こうした問題意識に基づいて 2008 年度に発足したのが，「近代／ポスト近代とキリスト教」という研究会である．

近代という時代をめぐる思想的な問題群は，研究者個人の力量をはるかに超えた巨大かつ広範な研究テーマであるが，多様な問題領域において研究を進めつつある研究者を結集することによって，「近代／ポスト近代とキリスト教」というテーマに正面から取り組みたいと考えている．本研究会で取り組むべき問題は，さしあたり次の三つのまとめられる．

１．近代という時代状況の中で，キリスト教思想がいかなる課題に直面しつつ，多様な思索を展開してきたかを解明すること．そのために，近代キリスト教会と神学の歴史的展開を詳細に辿ることが求められる（思想史的研究）．

２．キリスト教（あるいは宗教）という視点から見たときに，近代とはいかなる時代であり，それを乗り越える可能性はどこに見いだしうるのかを論じること．現代思想における様々な近代論を参照しつつ，ポスト近代の動向を探る．その際に，キリスト教に限定されない，より広い宗教動向を念頭に置くが必要になる（近代／ポスト近代論）．

３．近代の文脈において形成展開されてきたキリスト教思想（神学あるいは宗教哲学）を現時点から振り返り，近代キリスト教思想の学としての可能性を再考すること（学説史の再構成から新たな理論構築へ）．

もちろん，研究会という形で共同研究を推進するには，より明確な仕方で絞り込んだ問題設定を行うことが必要であり，まず，2007 年度前半において，研究会発足時に集まっていただいたメンバーの問題意識を集約することによって，研究会の具体的な方向性を明らかにした上で，2007 年度後半から本格的な共同研究を開始した．その成果は，すでに，『キリスト教と近代化の諸相』（電子ジャーナル）として公にされた通りである．2008 年度は，月一度のペースで研究会を開催し，近代とポスト近代のキリスト教思想の諸問題を国家論や政治論との関連において集中的に取り扱うという仕方で，討論が進められた．本研究報告書は，その成果である．未熟な点，不十分な点も散見されるが，皆様からの率直なご指摘とご意見をお待ちしたい．

研究会代表　芦名定道